

令和4年度(2022年度) 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書
【小名浜白百合幼稚園】

当幼稚園における令和4年度事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do)／ 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	<p>この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適切な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭教育を補うことを保育の目的とする。</p> <p>昨年に引き続きコロナ対策に重点を置き、園児、保護者、さらに職員の安全安心を確保し、変化する生活や行事であっても子どもたちが仲間と楽しく生き生きと自己発揮できる内容にすべく、全職員が知恵を出し合い工夫する努力を重ねたい。</p>	<p>本園は子どもとの生活の中で「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる心の教育を目標とし、園児一人ひとりが安心できる居場所となるよう、寄り添い認める保育をし、更に生活習慣を身につけさせると共に集団での遊びが充実する保育を行った。</p> <p>教育目標である心の教育を達成するため、職員間での共通理解を深める努力をした。</p> <p>またコロナ禍の中、園児一人ひとりが心身ともに健やかに成長するために、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として下記の通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本的習慣(検温、手指消毒、マスク着用、備品・玩具等の消毒作業)の徹底を図り、安全安心を重視し園児の健康管理に努めた ●職員間の連携、共通理解を重ね、昨年度に引き続き問い合わせ及び指示を主幹に一本化した ●各家庭での感染防止・健康管理の徹底 ●園児の日々の生活、遊び、行事等の見直しを繰り返し行い、職員の知恵と工夫により、安全安心の中で仲間と充実した園生活を過ごせるよう努めた 	<p>令和5度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めて行く。</p> <p>なお、コロナ関連については、新型コロナウイルスに対する国の取り扱い及び自治体の指導に基づき、園児、保護者、職員の安心安全を確保すべく、引き続き対策に努めたい。</p>

<p>目的 (園則より)</p>		<p>しかしながら、上記のような対策をする中でも、新型コロナウイルスが猛威を振るい、休園や学年閉鎖等を余儀なくされたことは残念なことであったが、職員それぞれが、出来得る対策や自らの職務について向き合い考えを深め、職員一丸となって乗り越えようとする士気がさらに上がった。園にとって、神さまから賜った大切な試練であった。</p>	
<p>年間行事 について</p>	<p>積み重ねと継続を大切に、各種行事を挙行する。 予定の詳細については、各幼稚園の年間行事予定表を作成及び公表する。</p>	<p>別紙、年間行事予定表に沿って行事を行い、保護者からも子どもたちの成長に対し評価をいただいた。 尚、年間を通して新型コロナウイルス感染拡大防止策「子どもの命を守る」を最優先に掲げ、創意工夫をしながら可能な範囲で行事を最大限実施した。 昨年度に引き続き、保護者参加の限定の傍らYoutubeライブ配信を実施し、子どもたちの配信ならではの様々な表情を伝えることが出来、保護者より高い評価を得た。 出来る限り園児中心の行事を工夫し、知恵を出すことにより、どの行事も園児・保護者・職員が満足した笑顔になった。</p>	<p>令和5年度は新型コロナウイルスの取り扱いに変化があると思われるが、引き続き感染拡大防止に努めながら、行事を実施することになる。 様々な規制が緩和される中であっても、柔軟な発想と対応策をもって子どもに寄り添い考え、何が子供の成長に大切なのかを日々考えながら、教育提供を行っていく。</p>
<p>新規事業 について</p>	<p>① 職員室事務用パソコン新機入替</p>	<p>従来の機器が経年劣化により動作不良が著しかったため入替を実施した。 新機については問題なく動作しており、事務作業の効率化が認められた。</p>	<p>今後も設置してある機器を大切に使い維持し、作業効率化に努めたい。</p>

新規事業 について	② 未満児保育室掃き出し口 屋根設置	未満児たんぽぽ組掃き出し口の部分に、雨除けや遮光のため設置した。 降園のお迎えの際には、掃き出し口部分で園児が待機しやすくなったことで、スムーズなドライブスルーの実施に貢献することができた。	今後も、ドライブスルーや避難(訓練)の際に、園児がスムーズに出入りできるよう活用したい。
	③ 園舎屋根の十字架塗装	経年劣化により塗料がはげ落ちていた部分があったため再塗装を実施した。カトリック園の象徴の一つとして、十字架の品質を維持することが出来た。	今後も、施設、設備等の維持管理に努めたい。
	④ 東側通用門扉交換	経年劣化による防犯上の懸念があったことから、新しい門扉に交換した。 従来品より強度があり、高さも高くなったことで、防犯対策として効果を上げることが出来た。	今後も、施設、防犯機器等の維持管理に努めたい。
	⑤ 遊具点検 5年パッケージ	大型遊具の状態保全のため導入した。現在のところ点検によって劣化や故障は発見されていないが、職員の日々の目視点検と合わせて定期点検を行うことで、園児のケガ防止の担保となった。	安全第一を最優先に、引き続き定期点検を実施していく。
	⑥ 日常清掃業務	保育終了後の清掃を外部委託することで、職員が事務作業に充てられる時間が増え、残業時間の縮小に貢献することが出来た。	今後も継続し、より良い労働環境の提供に努める。

<p>職員の 質向上に ついて (研修等への 参加含)</p>	<p>園内外の研修に参加し、保育の質の向上に力を注ぐ。 聖書からの心の糧を養う研修に参加する。 特別支援を要する幼児の保育向上にも力を注ぐ。 動物など自然とのふれあい事業を通し、命の大切さ、動物との関わり方などを学ぶ。 避難訓練、防災訓練、交通安全教室を通し、危機管理に係る知識を深める。</p>	<p>研修を通して職員間の共通理解を深め、保育の質の向上を図ることが出来、より一層保育の充実に繋がった。 また、園児募集の志願者数にも反映されている。</p>	<p>令和5年度は、新採用の職員や支援員が複数名いる体制での教育提供となる。 職員一人ひとりが、自分が出来ること、すべきことを考え自覚して自己研鑽できるように、研修の機会を積極的に設けたい。</p>
<p>その他</p>			

2. 総括

- 職員が「何を大切にするか」を考え、思い、共通理解し実践している。保護者は園と職員を信頼してくださり、理解、協力してくださっている。この信頼関係があつてこそ、園運営、コロナに関すること、保育・行事に関すること、全てが予定通り行えた要因だと思う。
- 発達障がい児や気になる部分がある園児を受入れ、保護者と連携を取りながら個々に寄り添った保育を実行してきた。特に新入園児では、入園当初は園内に留まるのが難しい園児も数名いたが、年度の終盤ではクラスで座っている時間が増えたり、挨拶等の良い習慣がついたり、大きな成長が見て取れた。健常児についても同様に、心身の定型発達以上に、違いを理解しようしたり、認め合い、助け合おうしたりする姿が見られ、カトリック幼稚園としての教育目標「感動する心」「感謝する心」「祈る心」「共に生きる力」が芽生え育ってきていることを実感し、手を合わせ感謝した。
- コロナ関連について、園内では徹底した感染対策を実施していたことから集団感染と判断できる事例はなかったと考えるが、例外なくいわき市内もウイルスが猛威を振るい、結果として休園、学年閉鎖を余儀なくされた。令和5年度にあたっては、国の新型コロナウイルスに対する取り扱いが改訂され、様々な規制が緩和されていく見通しであるが、依然として「特効薬」たるものが市井に提供されていない状況であるため、引き続き感染対策に努めたい。
- 施設、設備関連では、未満児保育室の掃き出し口に屋根とウッドデッキを増設できたことで、混みあった玄関で苦勞して出入りすることなく、園児を行き来させることが出来る環境となった。また、大通りから見取れる通用門や、広く地域から認識されている園舎屋根の十字架についても改修が出来たことは、保護者はもとより地域からも信頼を得るための担保となったと考える。
- 職員の残業時間軽減策として日常清掃を外部委託としたことは、事務作業の効率化に大きく貢献できた。令和5年度からは、更に効率化を進めるべく各クラスへのパソコン配備や園児に係る帳票の電子化等の施策を進め、労働環境改善に積極的に尽力したい。
- 事務局により、補助金手続や、コロナ感染・接触等に係る就労体制の構築・整備、及び園が抱える諸問題等を解決していただいていることにより、混乱なく園運営を行うことが出来た。
- 「出来ない」と排除せず、「出来ること」を「出来るだけ」「出来る時に」「出来る人が」行うために、知恵と工夫で壁を乗り越えてきた。今後も、園児、保護者、職員の安心・安全・健全の確保の強化を図り、保護者や地域の皆様から心からの信頼を得られるよう努力したい。